

# 平成25年度 糸魚川市体育部 活動報告

部長 佐藤 剛

## 1 研究主題

互いに協力し、役割を分担して行うボール運動（ベースボール型）の学習過程の工夫

## 2 研究の概要

本研究主題は平成23年4月1日より全面実施となった現行学習指導要領が、その改訂の趣旨として取り上げた内容に対応したものである。それは第3学年及び第4学年のボール運動において示された次の3点である。

- (1) ベースボール型ゲームでは、蹴る、打つ、捕る、投げるなどの動きによって、易しいゲームをすること。
- (2) 運動に進んで取り組み、規則を守り仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。
- (3) 規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を立てたりすることができるようにする

## 3 研究の実際

- (1) 日 時 平成25年11月13日（水）
- (2) 会 場 糸魚川市立中能生小学校
- (3) 指導者 糸魚川市立根知小学校  
教頭 宮川高広様
- (4) 授 業 第3学年「ラケットベースボール」
- (5) 授業者 中能生小学校 三上賢司教諭
- (6) 参加者 糸魚川市教育研究会体育部員 36名



## 4 成果と課題

### (1) 授業公開

子どもの具体的な活動の様子から、「塁が増えた場合に応じた攻め方や守り方を考え、ゲームをすることができる」とした本時のねらいが達成できたことを確かめた。また、授業者が単元全体で目指す3つの目標も、指導計画に従って進めることで、達成できることが予測できた。それらは次のとおりである。

- ①ボールを打つ、捕る、投げるなどの簡単な技能を身に付けて、ゲームを楽しむ。
- ②進んで取り組み、規則を守り仲よく運動することができる。
- ③規則を工夫したり、簡単な作戦を立てたりすることができる。

### (2) 研究協議

- ①研究主題にある「学習過程の工夫」について、どのようなステップがあったのか、また能生中学校への連続・発展として、どのような見通しがあるのかについて質問が出された。そして、スムーズな移行のために、どんな連携が大切なのかを話し合った。
- ②能生中学校区を例に、各中学校区での小・中の連携について話し合った。その後、各取組を紹介し合い、今後の取組の参考にすることができた。

### (3) 指導

- ①児童が技術面の個人差をカバーしあう本単元の授業者の工夫について、本時の具体的な場面をもとに評価していただいた。
- ②児童・生徒の実態に合わせて条件を積み重ねていく簡易型ゲームの連続・発展について、指導者の実践例をもとに具体的に指導していただいた。

